

つくばちびっこ博士

つくばちびっこ博士は、つくば市が全国の小中学生を対象に実施している夏休みイベントである。専用のパスポートを持って、つくば市内にある最先端技術や自然科学を学べる指定の研究機関等の展示やイベントなどを見学・体験しながら回るスタンプラリー形式で、今年は 39 の施設がこのイベントに協力している。普段は一般公開していない試験場や一般企業の研究所なども訪問でき、DNA の抽出やロボットスーツ体験、コンクリートの破壊実験など、大人も「おっ!?!」とするような体験型イベントを用意しているところもある。

JICA 筑波もこのイベントに毎年協力しており、夏休み期間中は一般開放スペースの常設展が充実し、食堂もエスニック料理が増える。また期間中に 4 種類の体験イベントを催して、研修員と触れ合いながら、国際理解と農業への興味を深めてもらう機会を設けている。

我々が受託実施している「小農支援のための野菜栽培技術とマーケティング手法」コースでもこの体験イベントのひとつを担当している。今年のテーマは「スイカ博士になろう!」ということで、スイカについての講義と糖度測定、そして食味試験を実施した。言葉は通じなくとも研修員と触れ合いながら、一緒にスイカを切ったり、糖度計を覗いてみたり、甘さを比べてみたり、とても楽しんで見られた。夏休みの貴重な時間に来ていただいたちびっこ達にとって、少しでも記憶に残る時間が提供できたなら幸いである。

ところでこの体験イベントには毎年アタマを悩ませている。とても難しい業務のひとつである。

難しさの要因は、まずは年齢の幅が広いこと。小中学生と一口に言っても、年齢にすると 6~15 歳になる。メインの参加者は小学生であるが、それでもこの年齢幅のちびっこ達全員の興味を引く話をするのは一筋

縄ではない。そしてちびっこの集中力は高いが、あまり長くは続かないので、要点を短くまとめなければならない。その一方で、我々が普段使うようなムズカシイ言葉は通じないし、早口になっても伝わらない。そこで今回はクイズ形式で話を進めることにした。簡単な問題からだんだんと問題のレベルを上げて、幅広い年齢を網羅すると共に、ときおりスライドから話し手に注意を向けてもらえるように心がけた。結構うまくいったと思うのだが、最近のちびっこはもの知りな子も多く、こちらが答えを言う前に正解をずばずば言いあてられてしまった。曰く、地図帳や連絡帳に豆知識として載っているようだ。

一通りスイカについて勉強した後は、糖度計を使った糖度測定を実施した。実はこの糖度計、アイドルが農業をする某 TV 番組のおかげでちびっこ達の間でも随分と認知度が高いシロモノになっている。とはいえ、使ったことがあるちびっこはいないので、結構楽しんでもらえる。スイカの真ん中、種のところ、外側、いろんな部位の糖度を調べてもらい、違いを数字で出して、食味で確かめてみる。ついつい年齢の上の子が独占してしまうことがあるので、各グループに付いてもらっている研修員にはその旨を言い含めておかなければならない。もちろん研修員とは事前にリハーサルを実施しておく。

その他、事前に包丁やまな板の消毒、清潔な布巾の用意など衛生面も気を使うところである。

結構大変な業務であるが、子供たちの笑顔はこのイベントでしか得られない特別な報酬である。イベント後のアンケートで「先生の話がわかりやすかった」「研修員のひととおはなしができてよかった」というコメントをもらえるとうれしい。しかしながら、やはり一番多いコメントは「スイカがおいしかったです。」もちろんスイカは当コースで栽培したもの。食べた人に喜んでもらえるのは、作り手の一番の喜びである。

(2014年8月澤田)

